

平成 15 年 3 月

学校の授業時間に関する国際比較調査

- 結果概要 -

(本調査は、渡辺良国立教育政策研究所部長を代表とする研究グループに文部科学省が委託したものである。)

1. 調査対象国・調査方法

アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、フィンランド、ハンガリー、中国、韓国、香港、台湾、シンガポール、インド、オーストラリア（15 か国・地域。連邦制をとる国については 2 ～ 3 州を選択）

各国・地域への質問紙による調査及びアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、シンガポール、中国、韓国については実地調査も実施（2002 年 7 月～ 11 月）

2. 調査結果

(1) 授業時間の定義

授業時間は、教科関連学習（道徳、宗教を含む）を対象。（特別活動、課外活動などを除く。）

(2) 法令その他に規定する授業時間（必修・必修選択教科）

日本は授業時間の少ないグループに入る。

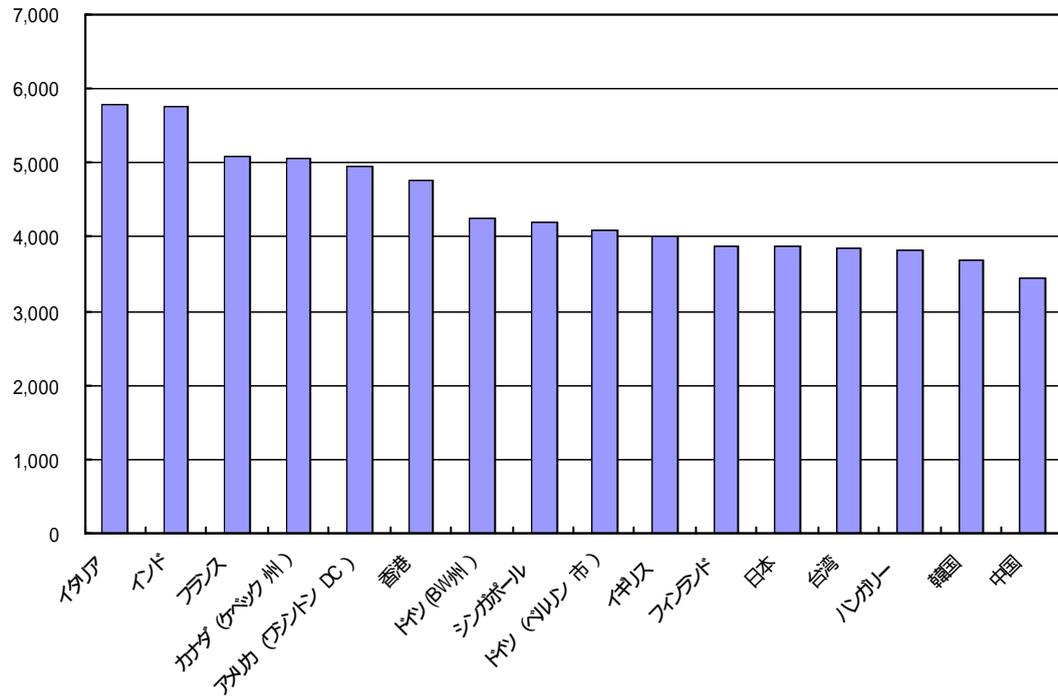
ただし、OECD「生徒の学習到達度調査」(PISA)及び IEA（国際教育到達度評価学会）の国際学力調査で成績のトップグループに入っている韓国、シンガポールも同様に少ない。また、小学校段階では、フィンランドや台湾も少ない。

(注) 1. 2002 年現在の規定による。時間は自然時間（1 時間 = 60 分）

2. 国によっては、休憩・教室移動時間により実際の学習時間が調査結果より減少している可能性がある（例えば実際の時間割編成では、アメリカ、イギリス、イタリア、インド、シンガポール、香港で各教科の授業の間に休憩・教室移動の時間を設けない例がみられる）

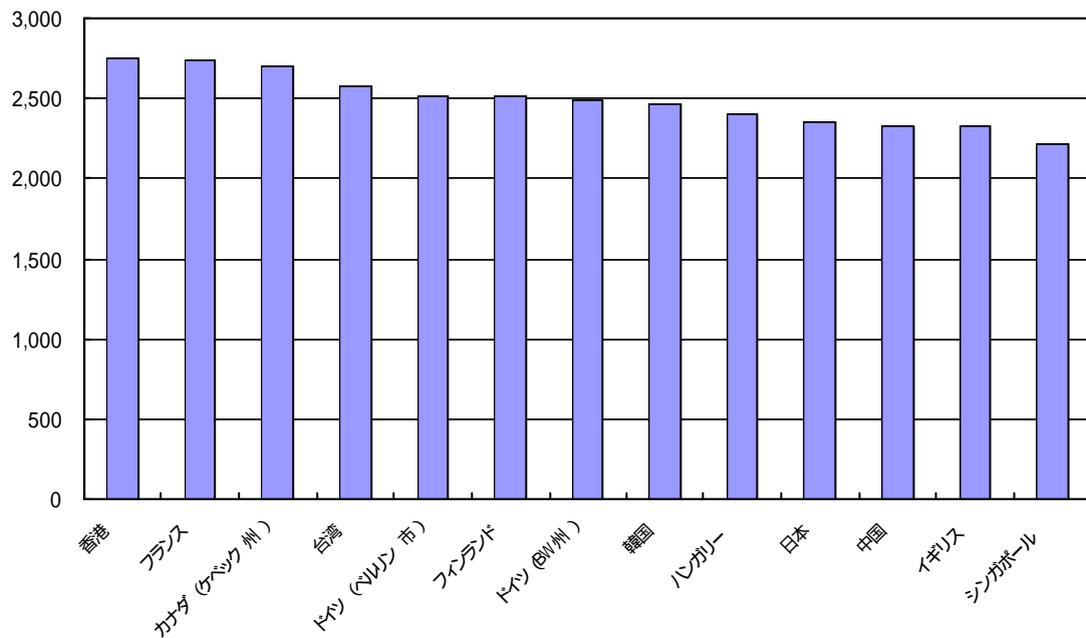
小学校段階 (第1～6学年の合計時間)

(授業時間)



中学校段階 (第7～9学年の合計時間)

(授業時間)

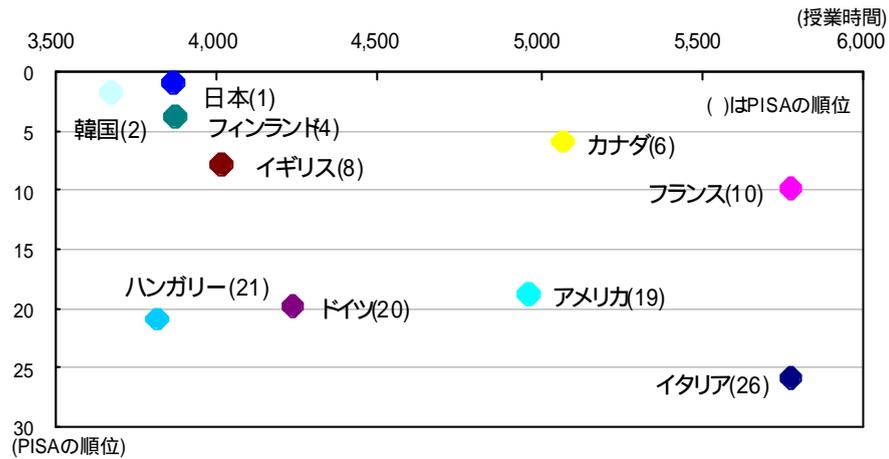


(参 考)

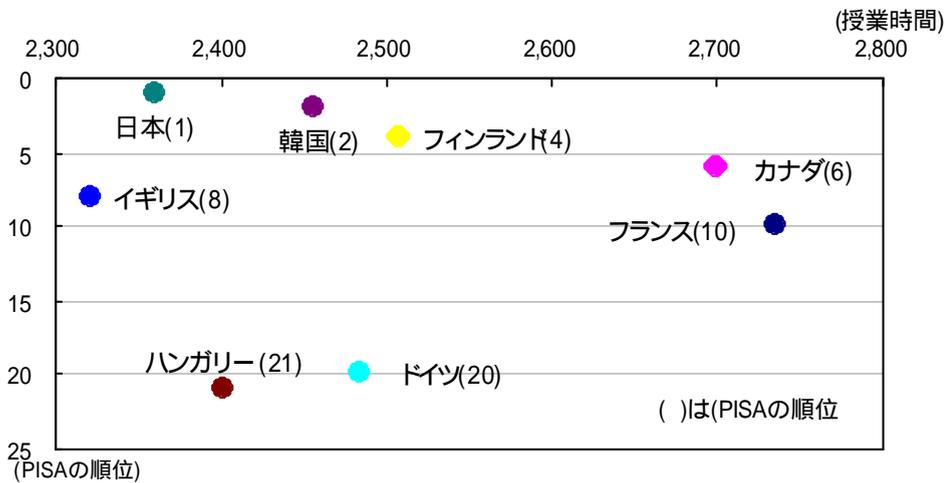
国際学力調査 (PISA) (数学的リテラシー)の結果と授業時間との相関

国際学力調査 (PISA)の結果と今回の調査結果による授業時間数の多寡との間に単純な関連性は認められない。日本や韓国など授業時間が少なく、かつ高い学習成果をあげている国は、教員やカリキュラムなど様々な要因により、効果的、効率的な授業が行われていると考えられる。

第 1 ~ 6 学年

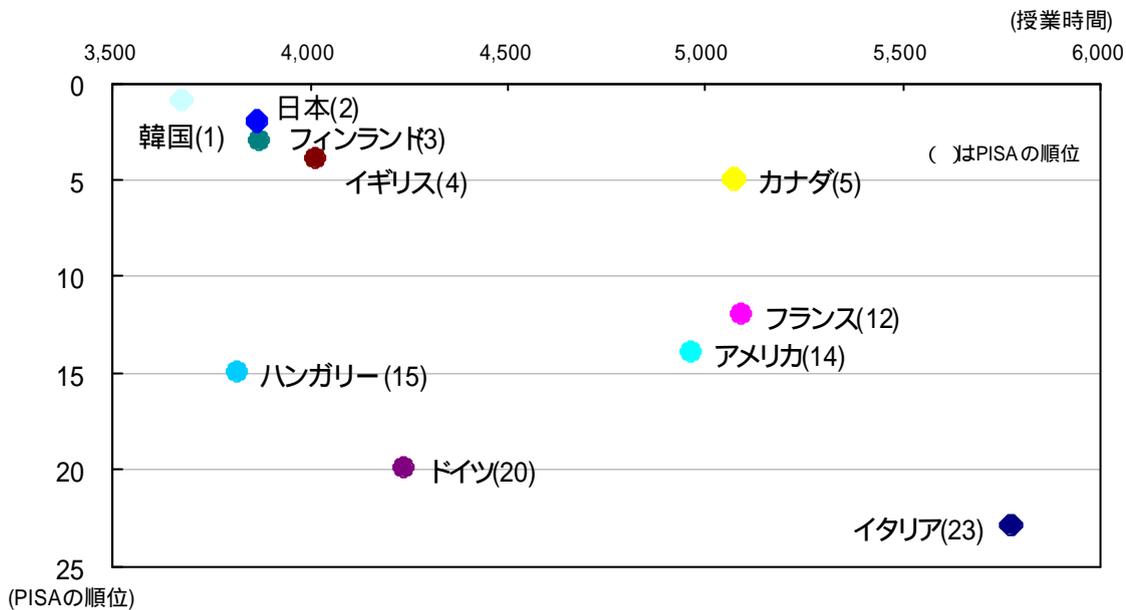


第 7 ~ 9 学年

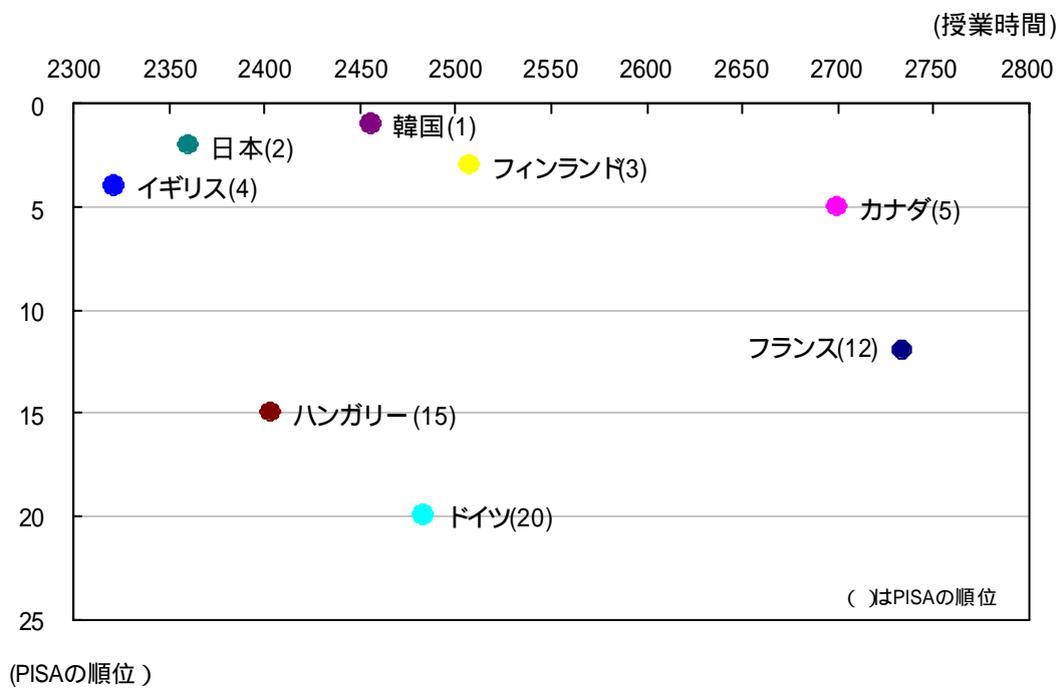


国際学力調査(PISA)(科学的リテラシー)の結果と授業時間との相関

第1～6学年

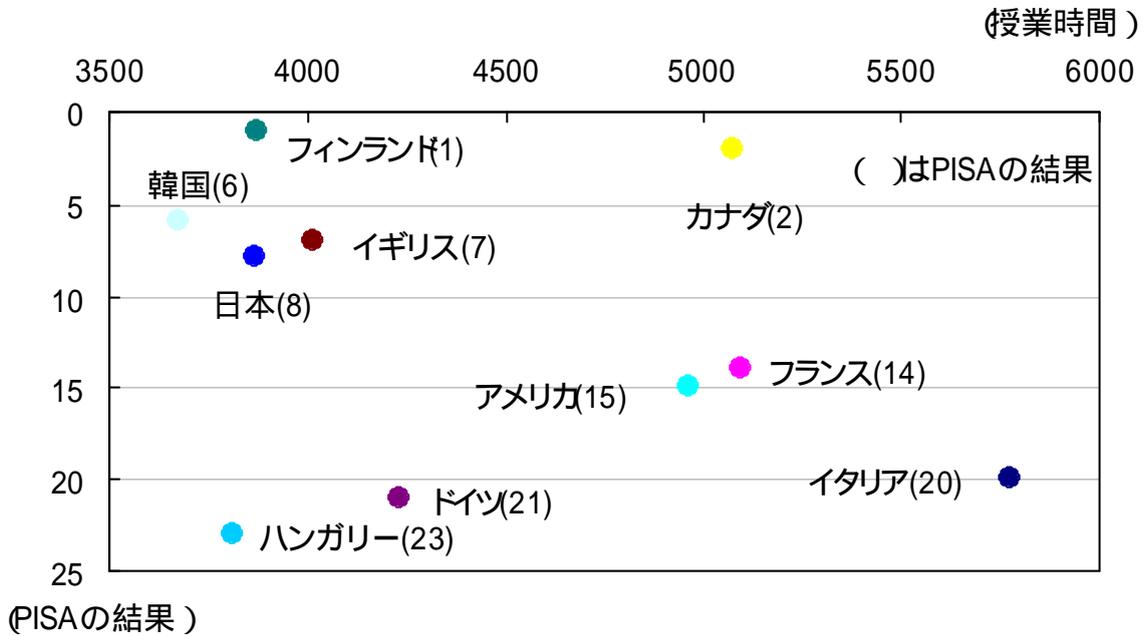


第7～9学年

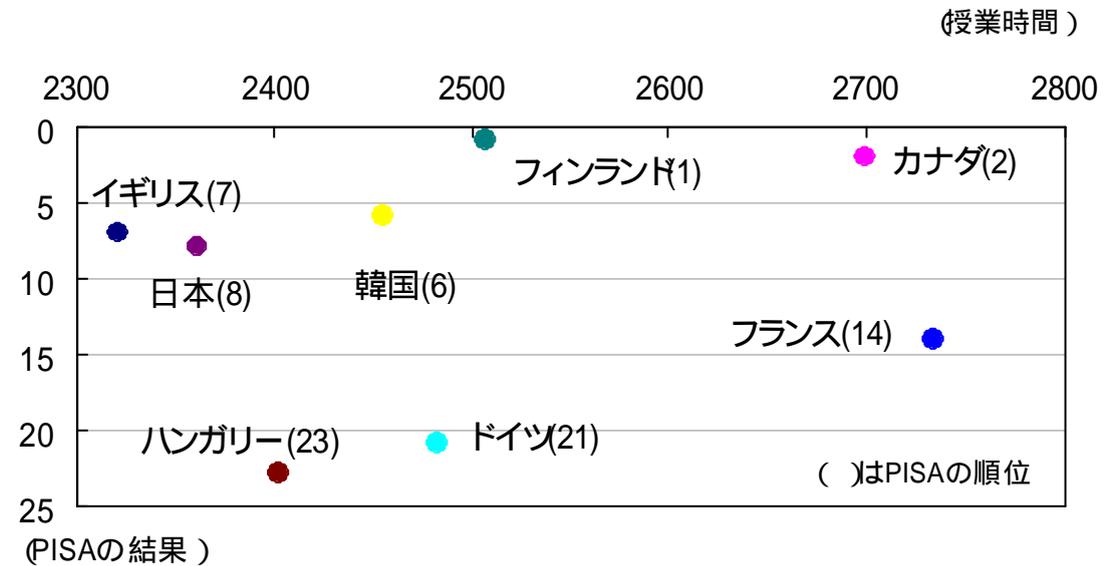


国際学力調査(PISA) (読解力) の結果と授業時間との相関

第1～6学年



第7～9学年



(3) 学校における実際の授業時間と規定の時間との比較

イギリス及び台湾が大幅に超えている以外，学校における実際の授業時間はおおむね規定の時間と同様となっている。

(4) 一日当たり授業時間

各国の事例や標準的な時間割編成によると，おおむね，年間授業時間の多い国が一日当たりの授業時間も多くなっている。